

道の駅・「交流村」計画に熱中している場合じゃなく 雇用確保・くらし応援こそ最大の景気対策

廃油アンケート さっそく反応

先週、「お元気ですか」で呼びかけたところ、まだ少ないですが、さっそく回答が返ってきました。現在の処理方法では「豊郷町のガソリンスタンドに持参」とか「炒めものなどで使い切っています」など回答。今後の取り組みとして「菜の花プロジェクトに参加」として、回収から代替え燃料、せっけん粉までの処理の流れを図に書いていただきました。ご協力ありがとうございます。

引き続きアンケートの回答をお待ちしています。
西澤伸明

6日、西澤議員が示した「交流村」計画3つの提案「施設建設は当面凍結」を宣言し、全町民の知恵と力を集め、真に「農業振興」「地域振興」とするため、公募による「(仮称) 検討委員会」を設置すること。着手に当たっては、膨大な税金を投入する「町の重点施策」であり、全町民の意向調査を実施すること。

西澤議員は6日、雇用の確保とくらしを守る緊急要望(甲良民報412号で項目のみ紹介)とともに、ふるさと交流村計画についても、従来からの主張の上に、農地埋め立て強行の現時点に立って、新たな提案も書面で提出(別枠掲載)。9日には野瀬主監、山本総務課長と面談し、要点を説明しました。その要望書によれば、雇用破壊と暮らしの深刻さを述べたうえで次のように強調。

「人権尊重の町、心かよ町」をかかげる本町において、労働者が寒空に放り出されて、生きる望みを断たれ、命と健康をおびやかされる事態を断じて看過してはならないと考えます。これは憲法で定められた労働の権利と生存の権利を守る政治・行政の責務です。

その立場に立つならば、ハコモノ先行で住民合意のない「ふるさと交流村」の実現に熱中している場合ではなく、本町の持てる力を全て活用して「雇用の確保こそ最大の景気対策」との立場で対応することが重要だと考えます。と13項目の実現を迫っています。

2月5日、臨時議会の開会冒頭あいさつに立った山崎町長は、ふるさと交流村計画を進行させるための「運営委員会」設置の考えを表明しました。

「ふるさと交流村」の看板が2つも設置され、今にも施設建設が進むような雰囲気。金屋北交差点周辺…、内実は…? 「コンビ」の誘致も管理・運営にあたるNPOの立ち上げもどは立っていないようです。町長の表明はその表われと見られています。

今、政治・行政は何を重視すべきなのでしょう。

雇用・税金・くらし何でも 相談受付のお知らせ

企業の大量解雇が報道され、身近で「派遣切りが始まった」などを聞くようになりました。お困りのこと、現行法で救済できる制度もあります。

まず、お電話ください。

- 22日(日) 午後5時～8時まで
- 西澤議員の自宅(在士463)にて
- Tel・Fax 38 4949

運営責任も示せない「計画」は凍結すべきです。

西澤議員の話し

ふるさと交流村計画に関しては、順序をまちがえ、住民合意を形成しないうちに強行しているため、色々な矛盾をかかえています。その一つが、以前から指摘している管理・運営・経営に責任を持つ機関が定まらないのにあることと進めていることです。本来であれば、手厚い農業振興策とその実績の上に、先ず必要性、どの場所が一番いいか、どんな施設・配置・形が計画の目的にふさわしいか、採算の見直しはどうか…など相談する機会・場がつけられていなければなりません。その上、開業後も責任を持つ運営機関でこれを協議することが肝心です。「貸農園」の形もないうちからシャワー室を作るなど言うのもその典型的な表れです。中身も運営責任もあいまいな計画は、「こぼれ凍結」、見直すべきです。農業生産を応援し、かつ、リスク少なく販売実績をあげるには、現在お客さんが集まってきているKモールの敷地内に何らかの形で開始する方が、うんと確実な方法であることを議会でも提案してきましょう。今回、町民みんなが安心して本音で「甲良町をどう光らせるのか、住みよい町にするにはどうすればいいのか」と話し合いができる場をつくること。そのために山崎町長がいう「施設建設を先行するつもりはない」との言明を担保するためにも、「計画の凍結・見直し」を議会で宣言することが欠かせないのではないのでしょうか。「3つの提案」が実現できるよう働きかけたい。

甲良民報

2009年2月22日 413号
発行責任: 日本共産党甲良町支部
代表: 西澤伸明 甲良町在士463
Tel.Fax38-4949

